

今週（4月23日から4月27日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、調達サイドの参加者が少なく、無担保コールO/N物は下限域で推移する展開となった。当座預金残高は週を通して380兆円台で推移した。無担保コールO/N物は、調達サイドの参加者の減少が顕著であり、週を通して下限域での取引が中心となった。出会いの水準は、23日の立ち上がりは▲0.086～▲0.06%の出会いから始まったものの、すぐにビッドサイドが閑散気味となったため、一巡後は▲0.08%台での取引が散発的に見られる程度であった。24日以降は日を追うごとにビッドサイドの参加者、調達量が減少していき、朝方▲0.086～▲0.05%近辺のレンジを中心に出会いが見られた後は、オファーが出し残ったまま一日の取引を終えるという展開が連日続いた。無担保コールO/N加重平均レートは▲0.07%前半半での推移となり、27日は出来高が大幅に減少したことで▲0.06%台後半まで上昇した。無担保コールの市場残高は、O/N物におけるオファーの出し残りの影響が大きく、23日の7兆円台から始まった後、週後半に掛けて6兆円を切る水準まで低下した。ターム物も同様に資金調達ニーズが低下しており、▲0.06%前後での取引が散発的に見られる程度であった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、26日に2W・8,000億円がオファーされ、応札額2,411億円（期落ち額1,460億円）の札割れとなった。

4月26日～4月27日に開催された金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。また、同時に発表された経済・物価情勢の展望では、物価上昇率が2%に達する時期の見通しが削除された（これまでは「2019年度頃」）。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、概ね▲0.14～▲0.09%程度のレンジでの取引となった。玉確保のビッドニーズが徐々に減少していたためか、レートは徐々に上昇していった。

SCは個別銘柄では2y384～386、5y130～135、10y333～350、20y163～164、30y57～58等、カレント近辺やチーペスト周りの銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半は先週の堅調な地合いを引継ぎ、散発的ながら強めの出会いも見られたものの、決済短縮化を控えて慎重姿勢が強まり、26日の3M物入札ではレートが上昇した。

26日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.168～▲0.16%での出会いが見られたものの、平均落札利回▲0.1556%、按分落札利回▲0.1358%と慎重姿勢を反映し、按分レートが流れる結果となった。セカンダリーでは、▲0.145～▲0.135%出会いと底堅く推移した。

27日に発表された国庫短期証券の買入れ方針では、「金融市場に対する影響を考慮しながら1回当たりのオファー金額を決定する」と発表され、前月から表現に変更は無かった。また、市場参加者のT+1化への円滑な移行を支援する観点から、5月の国庫短期証券の買入れ日程が示された。具体的には、5月1日、7日、14日、21日、28日である。なお、4月末の日銀の短国買入残高は17兆2,145億円となることが見込まれる。

●CP市場

今週のCP市場は大型連休を控えた月末週となったことで、幅広い業態で500億円超の大型案件が多く見られ、週間償還総額1兆1,100億円程度に対し、発行総額は2兆700億円程度と大幅発行超の活況なマーケットとなった。特にノンバンクの1社が連日で大口の調達を行い、4日間での発行総額は3,800億円程度と、発行量拡大を牽引した。3月末に13兆6,000億円程度に落ちこんだ市場残高は、26日時点で15兆9,000億円程度まで拡大している。昨年4月は、市場残高が前月比で1兆7,300億円程度の増加となったが、今年度は26日時点で既に、2兆2,800億円程度の増加となっており、過去最高の前月比増加となることが予想される。発行残高が急拡大する一方、発行レートに特段の上昇圧力は観測されておらず、引続き低位で推移した。大口の物や発行残高が積み上がっている物も0%近辺の狭いレンジで推移する中、発行頻度が低い銘柄や発行残高が少ない銘柄には積極的な買いが入り、マイナス圏でレートを深掘りする動きが見られた。

24日にはCP等買入オペが、2,500億円でオファーされた。結果は市場残高の増加を受けて、平均落札レート0.002%、按分落札レート▲0.005%と、前回比（平均▲0.008%、按分▲0.013%）で平均、按分ともに上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
4/23（月）	22,088.04	0.055	107.82	△ 0.071	△ 0.134	3,860,100
4/24（火）	22,278.12	0.050	108.76	△ 0.072	△ 0.141	3,856,900
4/25（水）	22,215.32	0.055	109.18	△ 0.072	△ 0.133	3,872,600
4/26（木）	22,319.61	0.055	109.37	△ 0.071	△ 0.098	3,873,600
4/27（金）	22,467.87	0.050	109.31	△ 0.068	△ 0.088	3,885,700

来週・再来週（5月1日から5月11日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/30 (月)	振替休日				3月の米個人所得・消費支出 4月のシカゴPM景況感指数
5/1 (火)					米FOMC(1日目) 3月の米建設支出 4月のISM 製造業景況指数 EURO祝日(Labour Day)
5/2 (水)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 4月のマネタリーベース(日銀 8:50) 4月の消費動向調査(内閣府 14:00)	TB3M 44,000億円 5/7発行	流動性供給 4,000億円 5/7発行		米FOMC(2日目) 1-3月期のユーロ圏GDP1次速報
5/3 (木)	憲法記念日				3月の米貿易収支 3月の米製造業新規受注・出荷・在庫 4月のISM 非製造業景況指数 4月のユーロ圏消費者物価指数速報値
5/4 (金)	みどりの日				4月の米雇用統計
5/7 (月)	5月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 金融政策決定会合議事要旨(3月8・9日分 8:50)				3月の米消費者信用残高 London祝日(May Day)
5/8 (火)	4月の全世帯家計調査(総務省 8:30)	10Y 22,000億円 5/9発行	交付税借入 10,500億円 5/16借入		
5/9 (水)	4月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 4月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00) 3月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 23,000億円 5/10発行			4月の米生産者物価指数 3月の米卸売売上高
5/10 (木)	決定会合における主な意見(4月26・27日分 8:50) 4月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 3月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)	10Y 物価連動 4,000億円 5/11発行			英中銀MPC結果発表 4月の米財政収支 4月の米消費者物価指数
5/11 (金)	4月のマネーストック(日銀 8:50)	TB3M 44,000億円 5/14発行	エネルギー 対策借入 6,000億円(見込み) 5/22借入		5月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/30 (月)									
5/1 (火)	▲ 1,800	▲ 12,600	▲ 14,400	全店共通 国債補完 CP買入	▲ 1,500 1,500 ▲ 200	2,400	2,200	▲ 12,200	TB3M発行▲44000償還38900
5/2 (水)	1,000	▲ 5,000	▲ 4,000	国債買入 短国買入			0	▲ 4,000	税・保険料揚げの前倒し 交付税借入▲10500期日10500
5/3 (木)									
5/4 (金)									
週間合計	▲ 800	▲ 17,600	▲ 18,400	—	▲ 200	2,400	2,200	▲ 16,200	
5/7 (月)	5,000	▲ 45,000	▲ 40,000	全店共通	▲ 2,000		▲ 2,000	▲ 42,000	税・保険料揚げ TB3M発行▲44000償還36800 流動性供給▲4000
5/8 (火)	4,000	3,000	7,000				0	7,000	
5/9 (水)	3,000	▲ 21,000	▲ 18,000				0	▲ 18,000	10Y発行▲22000
5/10 (木)	2,000	▲ 9,000	▲ 7,000				0	▲ 7,000	TB6M発行▲23000償還14800 交付税借入▲10500期日10500
5/11 (金)	1,000	▲ 4,000	▲ 3,000	CP買入		2,000	2,000	▲ 1,000	10Y物価連動発行▲4000
週間合計	15,000	▲ 76,000	▲ 61,000	—	▲ 2,000	2,000	0	▲ 61,000	

5/1は日銀予想、5/2以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、連休前の2日までは様子見姿勢が継続し、閑散な地合いが予想される。無担保コールO/N加重平均レートは引き続き弱含みで推移すると考えられる。連休明けの7日以降は調整の取りが復活し、若干レートが上昇すると予想する。レポ市場は、決済短縮化後の取引となり、参加者の動向やレートが注目される。短国市場は、2日、11日に3M物、9日に6M物の入札が実施予定となっており、決済短縮化の影響の有無や日銀買入オペの動向が注目される。CP市場は、発行レートは引き続き0%付近になると考えられる。大型連休の谷間にあたる1・2日は、発行案件の少ない閑散なマーケットとなるが、7日以降は徐々に発行が活発化してくると予想される。CP等買入オペは8日のオファー（買入日11日）が予定されている。

主要なイベントとしては2日のユーロ圏GDP1次速報、3日の4月のユーロ圏CPI速報値、4日の4月の米雇用統計などが挙げられる。海外中銀の動向としては、1～2日にFOMC、10日に英MPC結果発表がある。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。